

平成19年5月7日

各 位

会社名 ユニコムグループホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 二家 英 彰
 (JASDAQ・コード8744)
 問合せ先 常務取締役 酒井 清 行
 TEL 03-5623-8744

平成19年3月期決算速報値（連結・個別）に関するお知らせ

平成19年3月期決算（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の連結及び個別の業績につきまして、平成19年5月17日予定の正式発表に向け、現在決算集計中であります。しかしながら、当社グループでは、株主をはじめ、投資家の皆様に対して適切な情報開示を適時に行うため、決算集計の過程で取りまとめました連結及び個別の当期決算の速報値を、下記のとおり開示することといたしました。

なお、当社グループは連結及び個別の業績予想を開示しておりませんので、業績対比は前年同期比で行っております。

記

1. 決算速報値

①平成19年3月期決算速報値（連結）

（金額の単位：百万円）

	平成19年3月期 決算 速報値 (A)	平成18年3月期 決算 実績 (B)	前年同期比 (A)/(B) (%)
営業収益	14,268	19,088	74.7%
経常利益	756	3,109	24.3%
当期純利益	48	2,687	1.8%

②平成19年3月期決算速報値（個別）

（金額の単位：百万円）

	平成19年3月期 決算 速報値 (A)	平成18年3月期 決算 実績 (B)	前年同期比 (A)/(B) (%)
営業収益	5,308	12,748	41.6%
経常利益	492	1,542	32.0%
当期純利益	△218	1,048	—

2. 業績概要（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(1) 連結業績概要

当連結会計年度における当社グループの連結業績は、下記のとおり各事業部門の収益が減収となることから、営業収益、経常利益、当期純利益ともに前期実績を下回る見通しとなっております。

各事業部門の業績概要は以下のとおりであります。

(商品先物取引業)

当連結会計年度の商品先物取引市場は、市場の流動性低下が嫌気され、個人投資家の売買を手控えさせたことに加え、主力銘柄の一つである石油関連銘柄における激しい相場変動が個人投資家の取引に影響し、全国商品取引所出来高で前年度実績を約2割下回る結果となりました。

こうした中、当社グループの委託売買高は、石油市場において前期比で6割強の大幅減少となったことから、商品市場全体としても前期実績を下回ることとなり、結果、商品委託手数料は前期比で3割強の減収となる見通しです。

(金融先物取引)

2006年の外国為替相場は、米ドル/円を始めてとしてボラティリティが低水準であったことから、当社グループにおける取引高は前年度実績を下回り、通貨取引関連収益は前期比で4割強の減収となる見通しです。

(証券業)

昨年6月にかけての日経平均株価急落を受け、その後の個人委託者の株式売買意欲が減退した影響から、当社グループの委託売買高が減少し、結果、株式委託手数料収入は前期実績を下回る見通しです。

なお、税金等調整前当期純利益につきましては412百万円を見込んでおりますが、既に四半期決算発表時にお伝えしておりますとおり、期初において計上していた繰延税金資産に対して評価性引当額を立てたことからその分法人税等調整額が増加するため、当期純利益は48百万円となる見込みであります。

(2) 個別業績概要

当社は、平成18年10月1日付けの持株会社への移行に伴い、当社が従来行ってまいりました商品先物取引業、金融先物取引業、商品投資販売業、証券仲介業及びこれらに附帯する業務を、連結子会社である日本ユニコム分割準備株式会社（現 日本ユニコム株式会社）に包括的に承継いたしました。

これにより、当事業年度下期以降における当社の収益は、グループ子会社からの配当収入や経営指導料収入がその大部分を占めるため、従来 of 事業から得られる収益に比べて小規模となることから、当事業年度の営業収益は前年度を下回る見通しとなっております。

(注) 上記お知らせの内容は、あくまで決算集計中の概算・速報値ベースのものであり、後日、変更する可能性がありますので、お含み置きください。

以 上